

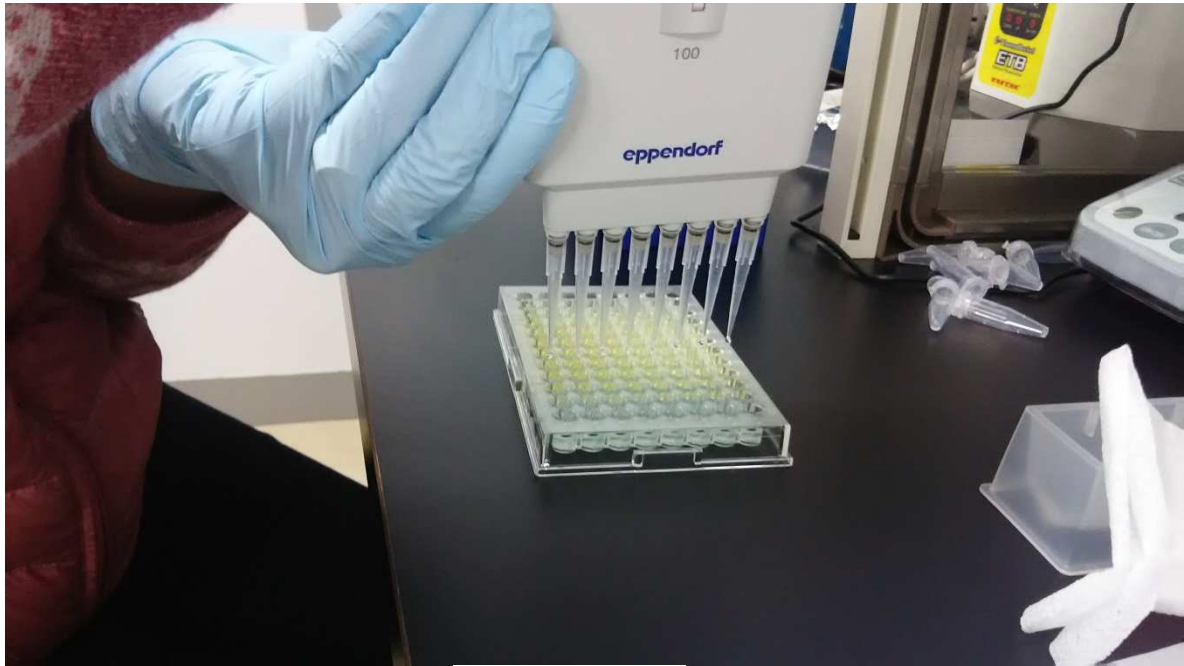
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

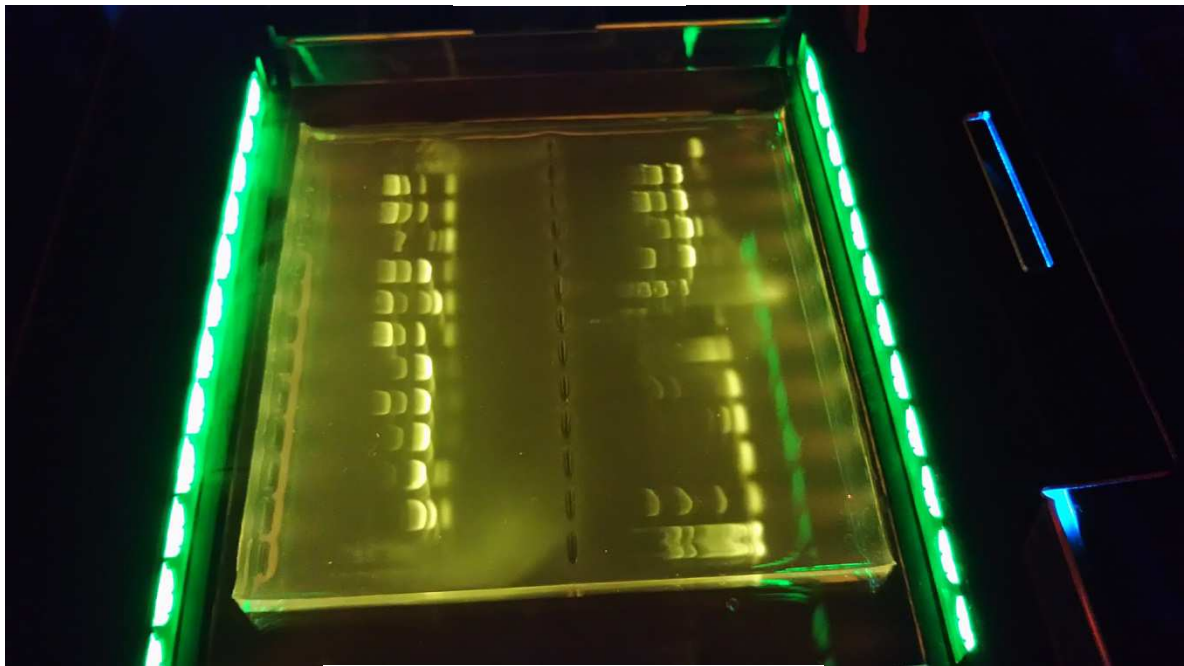
| | |
|-------------|---------------|
| 平成 26 年 月 日 | |
| 所属部局・職 | 霊長類研究所・修士課程学生 |
| 氏名 | 川口ゆり |

| |
|--|
| 1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域) |
| 霊長類研究所、日本 |
| 2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験) |
| ゲノム実習 |
| 3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) |
| 平成 26 年 10 月 24 日 ~ 平成 26 年 10 月 28 日 (5 日間) |
| 4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏) |
| 京都大学 野生動物研究センター 岸田 拓士(特定助教)、 霊長類研究所 木下こづえ(助教)、早川 卓志(特定助教) |
| 5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由) |
| 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。 |
| 上記の期間、フィールド科学実習(屋久島実習)に引き続きゲノム実習に参加した。ゲノム実習では屋久島で採取したヤクザルの糞サンプルをもとに前半の二日はDNAの抽出と性判定、後半二日はホルモン分析を行い、最終日にゲノム実習の結果と合わせてグループで口頭発表を行った。 ごく簡単に結果をまとめると以下のとおりである。屋久島実習の結果からは、糞 1g あたりの寄生虫の卵の数はオスの方が多いことがわかった。性判定は、サンプルからDNAが含まれる部分を抽出し、PCRを行い性決定遺伝子のバンドの有無を調べることで行った。しかし、この結果はフィールドでの観察で明らかに雌雄が分かっているものについても、観察と異なる結果になったため、あまり使えるデータとはならなかった。ホルモン分析はサンプルに対し電気泳動を行い酵素免疫測定法を用いて測定した。酵素免疫測定法とは、抗体に対する抗原とステロイドホルモンの割合を吸光度を測ることで求める方法である。テストステロンは当然、雄の方が多かったが、コルチゾルは雌雄差が見られなかった。またそれぞれのホルモンと寄生虫数にも有意な相関は見られなかった。結果は”Testing the trade-off between parasite resistance and the immunosuppressive hormones cortisol and testosterone”というタイトルで発表した。多くの方が聞きに来てくださった。発表後のディスカッションでは重要な指摘や貴重な示唆をたくさんいただいた。 実習の感想としては私が文系出身なこともあり、自分の本実習内容に対する知識のなさを実感した。ピペットなどを操作する技術が低かったり、データ解析を2名の実習参加者に任せきりにしてしまったり、実習中あまり役に立てなかったことを申し訳なく思う。屋久島実習においてはラボ班とスライド班に完全に分業したため結果やディスカッションの共有が全員で行えなかったが、今回はその反省を生かし、データ分析がある程度済んだ時点で結果を全員で共有することができたのでよりよい考察ができたのではないと思う。とはいうものの、スケジュールがタイトなのは屋久島実習と変わらず、ホルモンの実験が終わったのは発表前日の昼だったため、その日解散したのは0時前となってしまった。大勢の人数で一つの研究を行い発表するというのは困難であるものの、それぞれ得意な能力が活かせることに加え、様々なアイデアが浮かぶのでデメリットもメリットもあると感じた。大変ではあったが、有意義な実習となった。 |

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



酵素免疫測定



PCR 産物のゲル電気泳動法

6. その他 (特記事項など)

次週では岸田先生、木下先生、早川先生、佐藤氏に非常にお世話になりました。ありがとうございます。また、本実習は PWS の支援を受けて行いました。ここにお礼申し上げます。